

神経系の多彩な症状をスピーディーに 診断し患者の生活の質を高める

脊髄外科部長 松本 洋明

2021年4月、吉田病院では脊椎・脊髄外科、三叉神経痛、顔面痙攣専門外来を新設しました。

いずれも症状が多彩であるため「年のせい」で済ませる患者様が多く、受診しようにも何科にかかればいいのか分からないという方も見られます。地域医療機関の先生方にとっても診断に迷うことがあるのではないのでしょうか。

当科ではこれら神経系の病気の検査から診断、治療を迅速に進め、必要に応じて手術やリハビリテーションに至るまでしっかりフォローしています。

脊椎・脊髄外科、三叉神経痛、顔面痙攣専門外来紹介ページ

<https://www.yoshida-hp.or.jp/gairai/shinkei.html>



脊髄外科の専門性を生かし、「年のせい」で終わらせない診療を目指す

私たちは脊椎・脊髄の病気や三叉神経痛、顔面痙攣を主に診療していますが、その中で最も多いのが脊椎・脊髄の病気です。

しかし、手のしびれなどの症状が少し出たくらいでは、「年のせいだろう」と考える人がほとんどではないでしょうか。受診するとしても、日本では昔から首や肩、腰の症状は整形外科で診るべきというイメージが根強く、整形外科にかかる方が目立ちます。しかし、世界的に見るとこれらの病気は脳外科で診療することが多いのが現状です。

神戸市は150万の人口を抱える都市でありながら、脊椎・脊髄の病気を専門的に診療する医療機関は限られています。日本脊髄外科学会が認定する指導医資格を持つ医師は全国に150人超いますが、神戸市内では私を含め3人しかいません。脊椎・脊髄の病気で他科を受診しても手遅れになることは少ないと思いますが、当院では脳神経疾患の診療を専門としており、神経系を詳しく調べピンポイントで診断することができます。



患者を待たせない、スピーディーな 診断・治療を心がける

受診から検査、診断までのスピード感も当科の強みです。通常、多くの医療機関ではレントゲン検査をすぐに行うことはできても、神経の状態を見るMRI検査は予約制で先延ばしになる

ボタンをとめるような細かい作業がしづらいつらい、歩行時にわずかな段差でつまづくなどの傾向が顕著になってきたら脊椎・脊髄疾患の可能性があらあります。「年のせい」で済ませる前に、一度こちらにご紹介いただくことをお勧めします。

インタビュー全文をWEBページにて公開しています。

<https://www.yoshida-hp.or.jp/column/interview/index04.html>

TOPICS

- ・三叉神経痛は手術を視野に入れた幅広い治療を展開
- ・近隣の眼科医と連携し、顔面痙攣の悩みを改善する
- ・患者の生活の質を高め、人生をハッピーにするお手伝いをしたいり除く



ことも少なくありません。当科では初診当日にMRI検査まで行い、その日のうちに診断をつけて治療方針を決めることも可能です。画像だけでなく、手足の動きなども細かくチェックして診断に結びつけるので、患者様の安心感も大きいことと思います。状態やご希望によっては手術を行うこともあります。当院はリハビリテーションが充実しているので術後も一貫してお任せいただけます。

薬物療法を行う場合はなるべく1〜2週おきに受診していただき、症状がどの程度改善してきたか、副作用は出ていないかなど、こまめに様子を見ていきます。

メルマガ登録はこちら

吉田病院メールマガジン <https://www.yoshida-hp.or.jp/tiiki/newsletter.html>

日々の診療にお役立て頂ける脳疾患に関する専門的な情報や当院の取り組みにをメルマガにて配信しています。

※配信停止などはいつでも行って頂けます。



社会医療法人榮昌会
吉田病院 附属脳血管研究所

〒652-0803 兵庫県神戸市兵庫区大開通9丁目2-6
TEL:078-576-2773 FAX:078-577-2792
<http://www.yoshida-hp.or.jp/>

患者さんのご紹介や当院へのご意見などは地域医療連携室にお気軽にご連絡ください。

TEL:078-576-1520 (平日 9:00~16:30 土曜 9:00~12:00 ※祝祭日は除く)